

【資料4】教職員部会・こども部会 ワークショップ報告資料

I) 教職員ワークショップ

1. 開催概要

大根中学校区の学校施設整備構想策定に向け、望ましい学習環境を踏まえた教室とオープンスペースや快適に働くことができる職員室のあり方を検討するため、教育や学習環境、就業環境のあり方について、教職員の意見を把握することを目的に、参加型・対話型の取組としてワークショップ（全2回）を開催しました。

	第1回	第2回
日時	令和7年6月19日(木)16時～17時	令和7年8月26日(火)15時～16時
場所	広畑小学校 視聴覚室	大根公民館 多目的ホール
テーマ	望ましい学習環境を実現する教室とオープンスペース等のあり方について	望ましい就業環境を実現する職員室のあり方について
対象	広畑小学校、大根小学校、大根中学校に勤務する教職員	
参加者数	60名程度	60名程度

I) 教職員ワークショップ

2. 第1回ワークショップについて

2-1 当日の流れ

●開会・挨拶

①市担当者より、趣旨を説明

- ・ 大根中学校区の学校施設整備構想策定に向けて検討を進めている。
- ・ 懇話会の教職員部会として、実際に学校で働き、児童生徒と関わっている教職員の意見を伺いたい。

●ワーク

②ワーク:テーマ「望ましい学習環境を実現する教室とオープンスペース等のあり方について」

【題目】

- ✓ 従来の教室ではできていないけど、本当はやりたい教育活動は？
- ✓ 子どもたちの主体的で協働的な学びを実現できるのはどこいったところ？
- ✓ 仮にオープンスペースがあれば、子どもたちの行動はどのように変わりそう？教職員はどのように使う？

- ・ 題目に対して、個々で付箋に意見・アイデアを書き出し、模造紙に貼りながらグループで共有。
- ・ 模造紙に貼られた意見を意見をグルーピング。

●発表

③発表

- ・ 2グループ1組で、互いにワークで出た意見・アイデアを共有。

●閉会



▲市担当者より、開会の挨拶・趣旨説明を行っている様子



▲グループで意見・アイデアを共有している様子



▲ワークで出た意見・アイデアを発表している様子

I) 教職員ワークショップ

2-2 結果まとめ

現状の主な課題

- ・全学年で共通して、「教室が狭く、複数の学び方ができる環境でない」「机が小さい」という意見が挙げられました。

本当はやりたい教育活動

	小学校1, 2年生	小学校3, 4年生	小学校5, 6年生	中学校
交流	・ 保護者や地域の方、他学年を対象とした発表会や交流。	・ 学年内で一斉に活動、手軽に集まる。	・ 他学年、他クラスとの交流。	・ 1～9年生で、縦割り掃除。
学習	・ 学年単位での学習活動。(学年集会、発表会、交流活動) ・ 簡単に教室を開閉したい。 ・ 気軽に使える大型モニターで発表。 ・ ひとりでも、グループでもそれぞれ集中して学習すること。 ・ グループ活動の際に、それぞれ区切られた空間での活動。	・ パーソナルスペースを大きくしたい。 ・ 教室をいくつかのスペースに分けて、広角的に使いたい。 ・ オープンスペースで異学年がテーマをもって学ぶ活動。	・ 囲まれた部屋での授業参加。 ・ クラスの壁を越えた選択制の授業。(算数、国語、道徳など) ・ 習熟度別の授業。オープンスペースに作品を張り出しイメージをふくらませる。	・ 授業ビデオでやりたい単元を学習できる。 ・ 生徒・発音練習が、場所を選ばずできる。(英) ・ 小人数やレベル別で選択できる。(英) ・ 習熟度別の授業。(数) ・ 様々な図書を利用した学び合い。(社) ・ 自ら学び、自分を伸ばす活動。→円卓で話し合う、調べる。
居場所	・ 子どもたちが自由に主体となって活動する。 ・ 教室内にクーリングスペースが作れると良い。			・ 教室に足が向かない生徒用のスペース。(職員室の前だと良い)
運動	・ 校庭、体育館が使用できない時の体づくり。 ・ 雨の日や熱中症などで校庭を使用できない時教室で実施できると良い。		・ 夏場に外に出られなくても、体育的な活動できるスペースがあると良い。	・ 希望する生徒(学年を問わない)全員で行うヨガ。

I) 教職員ワークショップ

2-2 結果まとめ

オープンスペースに期待すること

交流	・ クラス、学年を超えた交流が自然に生まれる。・関わり合う“量”が増える。			
学習	【学び方の選択】 ・ 子どもが自ら学びの場や学び方を選択できる。 ・ 自分で学びの空間・方法を選ぶので、主体的になれる。 ・ 自分が集中できる場所を選択できる。			
	小学校1, 2年生	小学校3, 4年生	小学校5, 6年生	中学校
	【グループ学習】 ・ グループ内発表など、周りのグループを気にせず広いスペースでできる。 ・ 鑑賞や発表会など、様々な所で同時にできる。 【個人学習】 ・ 静かな場所でやりたい人はオープンスペースで集中して取り組みそう。	【他学年での教え合い】 ・ 上の学年が下の学年に教えることで、自己肯定感が高まるとともに、復習にもなる。	【個人学習】 ・ 一人で集中して学べる。 ・ 自由進度学習ができる。 ・ 壁に向かって個別でやる。	【他学年での教え合い】 ・ 学年の枠にとらわれずに授業を展開、生徒達の学び合いができる。 【グループ学習】 ・ 学年で調べ学習がしやすくなる。 ・ 小集団でじっくり話し合える。 ・ 疑問をすぐに共有でき、協働学習がはかどる。 【学習の深度化】 ・ 創作のアイディアがたくさん出てきて豊かな発想で楽しめる。 ・ 本格的な雰囲気や古典文化に親しめる。
居場所	・ 子どもが自分に合った居場所を見つけることができる。 ・ 子どもや教師がリラックスできる。 ・ クールダウンできる。教室の端なら、目が届く。			・ 教員が見張るということをなくし、自分達で過ごしやすい空間となる。
運動	・ 雨天時などに制限されずに活動ができる。・簡単な運動ができる。			
その他	・ 教室内が見えることで、廊下を歩く児童も静かに移動しようとする。・壁がないので教師は全体を俯瞰できる。・3クラスを1人で見れる。			

I) 教職員ワークショップ

2-2 結果まとめ

オープンスペースに欲しいスペース・もの

		小学校1, 2年生	小学校3, 4年生	小学校5, 6年生	中学校
交流	スペース	廊下にベンチやテーブルなどを置いた”対話スペース”。	ちょっとした話ができるベンチを置けるスペースが欲しい。	世界中の学校とすぐにつながれるところ。(オンライン)	
	もの				
学習	スペース			- ホワイトボードに囲まれたスペース。 - 教科に関連した本があるスペース。 - 学習成果物を掲示するコーナー。	
	もの	- 身近に学びのツール。(電子機器、図書など教材・教具) - 調べたいことがすぐに手に取れるような本棚。	- 辞典、ペン、模造紙、調べられるもの。 - 子どもの考えが残り、考えが広がるような大きなホワイトボード。	- 自由に使えるインターネット。 - プラネタリウム。星、月の観察。	Wi-Fi環境。(主体的なら必要)
居場所	スペース	寝転がれるスペース。	- 植物、生き物などで安心できるスペース。 - 静かな(音のない)スペース。 - 学級文庫や本を置くスペース。 - 自由に読めるスペース。	子どもや教師がリラックスできるスペース。	
	もの	持ち物を全て入れられるロッカー。			リラックスできるようなもの。
その他	スペース			悩みを相談できる場。	
	もの		教卓はオープンスペース。		

I) 教職員ワークショップ

2-3 ワーク結果考察

○“現在の主な課題や本当はやりたい教育活動”については、

- 交流面では、**学級・学年の枠を超えた交流や地域・保護者に向けた発表会などを行いたい**という意見が挙げられました。
- 学習面では、**全学年に共通して、教室が狭く、机が小さいため、教育に自由度がない**ということが課題として挙げられました。**目的や活動によって可変できる空間**が求められています。
- 居場所としては、**教室内にクールダウンスペースや教室外にも行ける場所(居場所)**があると良いという意見が挙げられました。
- その他、**猛暑では校庭を使用できないため、屋外に体を動かすスペース**が欲しいという意見が学年によらず挙げられました。

○“オープンスペースにほしいスペースやつかい方”については、

学年を超えたトラブルやグループ活動で収集がつかなくなるのではないかとといった懸念事項も挙げられたものの、オープンスペースに期待することや欲しいスペース・ものに対する意見が多く挙げられました。

- 全学年において共通して、交流面では**異学年交流が活発になる**、学習面では**学び方を選択できる**という点が期待されています。ベンチや学びのツール・図書を身近に置くことで、児童生徒の主体的な活動を支えられるという意見が挙げられました。
- 特に、**低学年では発表などのグループ学習や静かに集中できる学習の場**となることが求められています。また、**高学年になるにつれて、学年の枠にとらわれず習熟度別に授業を展開できる場、教え合える場**となることが求められています。
- 居場所としては、**クールダウンできる場や自分にあった居場所を見つけられる場**となることが求められています。寝転がれるような場所や植物等を置くことで、安心できる空間になるという意見が挙げられました。
- 天候に左右されずに、**軽く運動できる場**としても期待されています。

I) 教職員ワークショップ

3. 第2回ワークショップについて

3-1 当日の流れ

●開会・挨拶

①市担当者より、趣旨を説明

- ・ 大根中学校区の学校施設整備構想策定に向けて検討を進めている。
- ・ 懇話会の教職員部会として、実際に学校で働き、児童生徒と関わっている教職員の意見を伺いたい。

●ワーク

②ワーク1「望ましい就業環境を実現する職員室のあり方について」

【題目】

- ✓ 職員室にあると良い機能・スペース・設備は？
- ✓ どんな風に使いたい？過ごしたい？
- ✓ もっとどうなったらいい？

- ・ お題に対して、個々で付箋に意見・アイデアを書き出し、模造紙に貼りながらグループで共有。

③ワーク2「小中一体となった義務教育学校の職員室のあり方について」

【題目】

- ✓ 小中一体となった義務教育学校の職員室に対する期待と不安は？

- ・ 題目に対して、個々で付箋に意見・アイデアを書き出し、模造紙に貼りながらグループで共有。

●発表

③発表

- ・ 2グループ1組で、互いにワークで出た意見・アイデアを共有。

●閉会



▲グループワーク全体の様子



▲グループで意見・アイデアを共有している様子



▲ワークで出た意見・アイデアを発表している様子

I) 教職員ワークショップ

3-2 ワーク1「望ましい就業環境を実現する職員室のあり方について」結果まとめ

■自由な席を選べる執務スペース



- 結局学年ごとに集まりそう。
- 個人の机は必要。
- 自席がある前提で自由に座席が選べる机があるといい。
- 仕事に集中して早く帰りたい人、談話もしつつ過ごしたい人も様々いるので、目的別にスペースがあると働きやすい。
- 席は固定せず、その日の気分によって変えたい。

■授業演習・ミーティングスペース(大人数)



- 大きなミーティングルームは、現状だとそれほど使わない。
- 声が気になるので、職員室とは離れた所が良い。
- タブレットの画面を投影できるモニターがあると良い。

■閉じたミーティングスペース(4～6人)



- ミーティング(学年研)ができるのはとても良い。
- 閉じたミーティングスペースは、各学年で1つは欲しい。
- 用途に合わせて仕切りを動かす等、人数を増減できると更に良い。
- 保護者・業者対応用に欲しい

■web会議もできる集中ブース(1人)



- 授業準備に1人で集中できるスペースが欲しい。
- 机上研修(動画)が増えているので、使ってみたい。
- 集中ブースは職員室でない場所でも良いかも。

I) 教職員ワークショップ

3-2 ワーク1「望ましい就業環境を実現する職員室のあり方について」結果まとめ

■作業スペース



- 使うものが揃っていると良い。
- 大きな机が欲しい。
- オープンスペースのように自由に区切ったり壁を外したりできる仕組み。
- 複数人で教科・教具を作れる。
- 立って話したり、作業ができるスペースがあるのは時間を効率的に使えて良い。

■教職員専用の休憩スペース



- 席を離れて休憩したい。
- 学年を超えてスペースを使って話し合えることができそうなので使いたい。
- もっとカフェのようにして欲しい。
- たくさんの緑を置いて欲しい。
- 職員室とは違う雰囲気になるようにしたい。
- 休憩スペースに簡易ソファやベッドのある仮眠コーナー。

■児童生徒の相談スペース



- 児童生徒の相談スペースは、ガラスなど仕切ることができて声は漏れないが、様子が見渡せるのが良い。
- 個人情報保護の観点から職員室でなくても良い。
- 職員室外に面談室があると良い。
- 保護者対応する応接室。

■個人ロッカー



- 個人ロッカーがあれば、机上整理ができる。
- 更衣室と兼用で良いので、鍵のかかる個人ロッカーがあると良い。
- スーツや礼服を保管するワードローブが欲しい。
- 私物をしまうロッカーだけではなく、事務書類をしまうロッカーも多く欲しい。
- 教材などを入れる学年・教科などのロッカーも欲しい。

I) 教職員ワークショップ

3-2 ワーク1「望ましい就業環境を実現する職員室のあり方について」結果まとめ

■その他

スペース

- ・ 電話をするときの静かなスペースが欲しい。
- ・ 防音スペース。(職員室が防音性が高いと良い)

設備

- ・ 体育館や特別教室の利用予定を映すモニターとパソコン。
- ・ デジタルモニターに行事予定が表示できたり、そのモニターが会議や研修等の説明にも伝えたりできると良い。
- ・ 職員室の壁にたくさんのホワイトボード。
- ・ 個人机がもう少し広いもの、作業しやすいものが欲しい。

職員室以外の諸室

- ・ 職員室内でも良いが近くに印刷室が欲しい。
- ・ 職員室に行かなくても休める場所。
- ・ 職員室内でなくても良いのでシャワールーム。
- ・ きれいなトイレ。歯磨きができる、パウダールームのような部屋。
- ・ 職員室の近くに保健室。

■会議室

- ・ 職員室の近くに全員入れる、研修が受けられる広い会議室。
- ・ 職員室とつながった、大人数が入れる会議室。
- ・ 最低で2クラス分くらいが入れる会議室。

I) 教職員ワークショップ

3-3 ワーク2「小中一体となった義務教育学校の職員室のあり方について」結果まとめ

期待すること

情報共有	・ 小中の困りごとを常に共有し合うことができる。 ・ 教職員同士の情報共有がすぐにできる。(生徒の相談など) ・ 情報交換ができて、進級時に色々と聞けそう。 ・ 引継ぎが簡単、共有もすぐにできる。 ・ 小6→中1への接続の不安が減る。(子どもの情報が共有しやすい) ・ 合同で何かやる時はすぐに相談できる、小と中の担当がすぐ隣にいる
専門性	・ 中学校の先生に専門的な授業の相談ができそう。 ・ 専門分野の指導法を教えてもらえる。 ・ 高学年と中学校等、自由な話し合いができる。 ・ 色々な先生と話ができる。意見が聞ける。 ・ 相談ができる相手が増えそう。
交流	・ 行事が楽しくなりそう。 ・ にぎやかで様々なアイデア、考えを共有できそう。 ・ 大人同士の交流が広がる。 ・ 知り合いが増え、自分の幅が広がる。 ・ 校種が違う教職員との交流がしやすくなる。
配置	・ 通級担当は小中でまとまったブロックにしたい。 ・ 皆さんの声と顔が見える配置にしたい。 ・ どこにでもすぐに行けるとか見渡しやすければ良い。

I) 教職員ワークショップ

3-3 ワーク2「小中一体となった義務教育学校の職員室のあり方について」結果まとめ

不安なこと

空間構成 (ハード面)

- 学年・教科・支援など色々なグループができるので、動線がスムーズにならないことが予想される。
- 職員がたくさんいて話したい人を探すのが大変そう。
- 管理職との距離感が遠くなるのではないかな。
- 個人の十分なスペースを確保して、学年のまとまりで分けられるのか。

ソフト面

- 電話のかかってくる量が多く、うるさくなりそう。
- 広いスペースの中で、人数が多く、情報の管理などが不安。
- 人数が多すぎて、意思疎通がしにくくなる、集中しにくくなる。
- 児童生徒や保護者の来訪が多くなり、対応に時間がかかりそう。
- 会議の持ち方や提案をどのように伝えていくべきか。
- 教育課程・時間割が違う中での共存はどうするか。
- 職員会議で発言しにくい。
- 逆に、児童生徒に対するイメージに先入観をもってしまうのではないかな。
- 小1と中3では話している内容がバラバラ。

I) 教職員ワークショップ

3-4 ワーク結果考察

○空間設計に対する多様なニーズと期待

- ワーク1では、教職員が求める空間のあり方として「集中できるブース」「学年ごとの閉じたミーティングスペース」など、業務内容や個人の働き方に応じた柔軟な空間が求められていました。教職員の多様な働き方を尊重し、効率と快適さを両立させる環境づくりが重要となります。一方、ワーク2では「小中の教員がすぐに相談できる配置」「声と顔が見えるレイアウト」など、校種を超えた連携を促進する空間への期待が表れています。個人の集中と他の人との交流を両立させる空間が求められていることが分かります。

○情報と専門性の共有

- ワーク2では、「小中の困りごとを常に共有できる」「専門的な授業の相談ができる」など、情報と専門性の共有が強く期待されています。ワーク1で求められている「教材作成のための作業スペース」「ミーティングスペース」などとも連動しており、共同作業の場が重要となります。

○休憩・リフレッシュの重要性

- ワーク1では、「カフェのような雰囲気」「緑の設置」「仮眠コーナー」など、心身のリフレッシュを促す空間への要望が多く挙げられました。ワーク2でも、「大人同士の交流が広がる」「知り合いが増える」など、休憩や雑談を通じた人間関係の構築が期待されており、休憩スペースが単なる休息の場ではなく、交流の場としても機能することが求められています。

○不安要素と課題

- ワーク2では、「動線がスムーズでない」「話したい人を探すのが大変」「管理職との距離感」など、空間構成に関する不安が挙げられました。また、「教育課程・時間割の違い」「職員会議で発言しにくい」など、校種間の文化や運営の違いによる懸念も挙げられています。

Ⅱ) こども部会

1. 開催概要

学校施設の整備に当たっては、施設の老朽化や少子化に伴う児童生徒数の減少などの社会情勢を踏まえながら、将来における子ども達の学びに対応した学校づくりを検討していくことが必要です。特に優先度の高い大根中学校区において、学校施設整備構想の策定を予定しており、その検討を進める中で、児童生徒の意見を把握し、みらいの学び舎づくりに反映することを目的に、参加型・対話型の取組としてこども部会を開催しました。

本部会においては、「①異学年交流の体験」「②学校内での自分たち（子どもたち）の居場所を考える」を目的とし、全体を通して「みらいの後輩たちに贈る学び舎」を考えていただきました。

日時	令和7年8月21日(木)9時～15時
場所	みんなの食堂☆ラパニス(秦野精華園内)
テーマ	みらいの後輩たちに贈る学び舎
対象	広畑小学校、大根小学校、大根中学校の児童生徒、秦野高校の生徒、東海大学(児童教育学科、建築学科)の学生
参加者数	29名

Ⅱ) こども部会

2. 当日の流れ

●開会・挨拶・オリエンテーション

①市担当者より、趣旨を説明

- ・ 大根中学校区の学校施設整備構想策定に向けて検討を進めている。
- ・ 実際に学校で過ごす時間が長い児童生徒の意見を聞き取り、どのような学校を望むか自由なアイデアを伺いたい。

②オリエンテーション

- ・ 小学校から大学生までが混ざったチームを組み、チーム対抗ジェスチャーゲームを実施。

●午前のワーク

③アイスブレイク・インプット

- ・ 自己紹介シートに「学校の好きなところ/小中学校の思い出」を記入し、グループ内で自己紹介
- ・ ワークの進め方を説明
- ・ 新しい学校のイメージを思い浮かべるため、事例を紹介

④ワーク「新しい学校で、こんなことができたらいいな！ こんな場所になったらいいな！」

【題目】

新しい小中学校のイメージを見た上で、

- ✓ どんなことがしたい？できそう？どんな風だったらもっと良い？
- ✓ 特にお気に入りのシーンは？

- ・ 題目に対して、個々で付箋に意見・アイデアを書き出し、模造紙に貼りながらグループで共有。
- ・ 他の人のアイデアも聞いた上で、特にお気に入りのシーンのイラストを描く。

⑤発表

- ・ ワークで出た意見・アイデアを全体で共有。
- ・ 各グループの発表に対して、大学生からコメントをいただく。



▲市担当者より、開会の挨拶・趣旨説明を行っている様子



▲付箋にアイデアをたくさん書き込んでいる様子



▲ワークで出た意見・アイデアを発表している様子

Ⅱ) こども部会

2. 当日の流れ

●午後のワーク

⑥インプット

- ・ ワークの進め方を説明

⑦ワーク「新しい学校をつくろう！」

【題目】

新しい小中学校のイメージを持った上で、

- ✓ 異学年交流が活発に行われる学校って？
- ✓ どんな場所があれば交流する？

- ・ 題目を基に、午前中のワークでイラストに書いた、特にお気に入りのシーンを実現できる学校を考える。
- ・ 校舎や体育館、グラウンド等の配置を話し合いながら、模型をつくり、模造紙上に学校のイメージを表現する。
- ・ グループでつくった学校のコンセプトを決める。

⑧発表

- ・ ワークで出た意見・アイデアを全体で共有。
- ・ 各グループの発表に対して、大学生からコメントをいただく。

●感想アンケート&写真撮影

⑨感想アンケート・写真撮影

- ・ ワークショップの感想をアンケートに記入。
- ・ 全員で記念に撮影。

●閉会



▲ランチの際に、高校生がチヂミを焼いている様子



▲グループで協力して学校づくりを行っている様子



▲みんなで集合写真を撮影

Ⅱ) こども部会

3. 結果まとめ

3-1 ワーク1「新しい学校で、こんなことができたらいいな！こんな場所になったらいいな！」結果まとめ



【小学生・中学生】

- 学年で交流できる共有スペースがほしい
- 出入口が混みにくく、スムーズに移動できる
- 教室と廊下を一体にすることで、全体が広く感じられる

【高校生・大学生】

- 他のクラスの授業も見ることができる
- 開放感があると適度な集中を保ちやすそう
- 廊下も教室として使うことで教室が広く感じられ色々な居場所ができる



【小学生・中学生】

- ベンチに収納があると良い
- 他クラスの人と交流しやすい

【高校生・大学生】

- 普段は通り過ぎるだけの場所が、居場所になる
- ベンチが廊下一面に欲しい！物置にもなる
- 長机とイスがあって、放課後に自由に勉強できる



【小学生・中学生】

- 本のジャンルで分けて欲しい
- 本を探せるコンピューターを置く
- 友達とうるさくなくても本が読める

【高校生・大学生】

- 気軽に使いやすい
- 読書だけでなく映画などが観れるフリースペース
- 友達と話しながら楽しむ
- 図書ってどの世代も使う→交流拠点になる



【小学生・中学生】

- 騒ぐ部屋と落ち着ける部屋をしっかりと分離したい
- 階数ごとにいくつか作って欲しい
- 皆でいる時間も大切だけど、一人でいる時間も必要

【高校生・大学生】

- 気持ちの整理ができてストレスが減る
- 便利だけど…きちんとしたルールが必要かも。

Ⅱ) こども部会

3-1 ワーク1「新しい学校で、こんなことができたらいいな！こんな場所になったらいいな！」結果まとめ



【小学生・中学生】

- ・ 仕切りのある空間を作って欲しい
- ・ ホワイトボードにみんなで書き込める
- ・ 友達と(他クラス)と協力して勉強できる
- ・ 教室だと集中出来ないの、専用の場所を作ってほしい

【高校生・大学生】

- ・ 友達どうして勉強会!!
- ・ 異学年との交流の場となる
- ・ 勉強の意欲も湧く!
- ・ 少人数で授業ができそう
- ・ 先生と話す機会も増える



【小学生・中学生】

- ・ 直接外に出れるようにする
- ・ ガラスでできた柵と白いコンクリートで見映えを良くする
- ・ 空を見ながら給食が食べれる

【高校生・大学生】

- ・ 開放感のあるつくりで気分転換できるような環境
- ・ フィールドワーク、野外学習が行いやすい



【小学生・中学生】

- ・ 教科書とかたくさん置ける
- ・ 大きい机が欲しい
- ・ なくし物が少なくなり、自分で物が管理出来る
- ・ 鍵をかけられるようにした方がいい

【高校生・大学生】

- ・ 自己管理能力を高めることができる
- ・ ランドセルの重さ問題を解決する!
- ・ 鍵付きで、服をかけることができるようにしてほしい
- ・ 専用のロッカースペースだけあれば、クラスルームはいらないのでは?



【小学生・中学生】

- ・ 芝生の広場があったらそこで遊んで転んでも痛くないからいい
- ・ 水筒の水を補給できるところ
- ・ 10分休憩の時に軽く外の空気を吸える

【高校生・大学生】

- ・ 運動以外にも芝に寝転んで過ごしたり
- ・ 外で自由に出来るのは良い!!
- ・ 日陰やベンチがあれば過ごしやすい

Ⅱ) こども部会

3-1 ワーク1「新しい学校で、こんなことができたらいいな！こんな場所になったらいいな！」結果まとめ



通路にも大教室にもなる階段

【小学生・中学生】

- ・ 滑り台をつける
- ・ スロープを作った方がいいと思う
- ・ 段差があるから前が見やすい→発表に向いている
- ・ 通るだけでなく、友達と喋ったり勉強したりできる

【高校生・大学生】

- ・ 教室よりもラフな授業
- ・ 写真が撮りやすそう
- ・ 友達同士で座布団を持って集合!!(交流)



大人数で集まれるホール

【小学生・中学生】

- ・ 学年関係なく大人数で集まれる
- ・ ピアノをホールに置く
- ・ 音楽活動が活発になりそう！
- ・ 休み時間に解放してほしい（違う学年の人とも交流したい）

【高校生・大学生】

- ・ 雨天時遊べると楽しい
- ・ 集会がしやすい
- ・ みんなでイベントができる
- ・ 地域をからめたイベントでも使えるところ

その他

- ・ うるさくできる防音の部屋がほしい
- ・ 校庭に休める小屋やベンチがほしい
- ・ 廊下とか体育館にクーラーがほしい
- ・ 習字の時に仕切りがある部屋に行きたい
- ・ 雨の日でも走ったりして遊べる(広い中庭)
- ・ 自然！生き物！森！虫！

Ⅱ) こども部会

3-1 ワーク1「新しい学校で、こんなことができたらいいな！こんな場所になったらいいな！」結果まとめ



【高校生・大学生】

- ・ 教員ものびのび過ごせる
- ・ 机&イスの置き方次第では人と人の繋がりがうまれそうつくれそう
- ・ 上下関係が感じにくくなり、意見が言いやすい
- ・ 作業が効率よく進む先生の労働時間短縮につながる



【高校生・大学生】

- ・ 先輩・後輩分け隔てなく関われる環境
- ・ 課外活動の相談ができるスペース(教室以外で)
- ・ オンライン授業の収録
- ・ 5年・10年後、湿度とCO2の数を調整できる教室集中力上げる?!



【高校生・大学生】

- ・ 教員の一人一人の部屋を作る
- ・ 大人が楽しめる場所になるといいね！
- ・ 新人の先生とかは、周りが気になって休憩しづらいかも

Ⅱ) こども部会

3-1 ワーク1「新しい学校で、こんなことができたらいいな！こんな場所になったらいいな！」結果まとめ

考察

○交流を促す空間

- ・ 「他クラス・他学年の人と交流しやすい」「学年関係なく大人数で集まれる」など、学年やクラスの枠を超えた交流を重視する声が多く見られました。廊下やベンチ、ホール、階段など、通過するだけの空間を“居場所”として活用する提案もあり、偶発的なコミュニケーションの場としての空間が求められています。

→学校を「学びの場」だけでなく「人とつながる場」として捉えており、交流が自然に生まれる空間を求めていることが分かります

○自然とのつながりと開放感

- ・ 「芝生広場」「空を見ながら給食」「外で自由に過ごせる」「フィールドワークがしやすい」など、屋外とのつながりを意識した提案が多く見られました。自然環境の中で過ごすことが、気分転換やリラックスにつながるという意見もあり、開放的な空間が求められています。

→自然と調和した環境は、子どもたちにとって心地よさや安心感をもたらす重要な要素であり、学びや生活の質を高めると考えられます

○個人の時間と空間の尊重

- ・ 「一人で静かに落ち着けるスペース」「気持ちの整理ができる」「鍵付きロッカー」「自分で物を管理できる」など、個人の時間やプライバシーを尊重する空間へのニーズが強く見られました。騒がしい空間と静かな空間を分ける工夫や、個人スペースの確保が求められています。

→「みんなで過ごす時間」と「ひとりで過ごす時間」の両方を大切に、学校にもその選択肢があることを望んでいることが分かります

○柔軟で多様な学びの場

- ・ 「廊下も教室として使う」「仕切りのあるフリースペース」「少人数で授業ができる」「先生と話す機会が増える」など、従来の教室の枠にとらわれない学びのスタイルが提案されています。教室以外の場所での学びや、他学年・他クラスとの協働学習が意欲を高めるという声もありました。

→空間の使い方によって学習意欲や集中力が高まるため、学びの場がもっと自由で柔軟であることを望んでいることが分かります

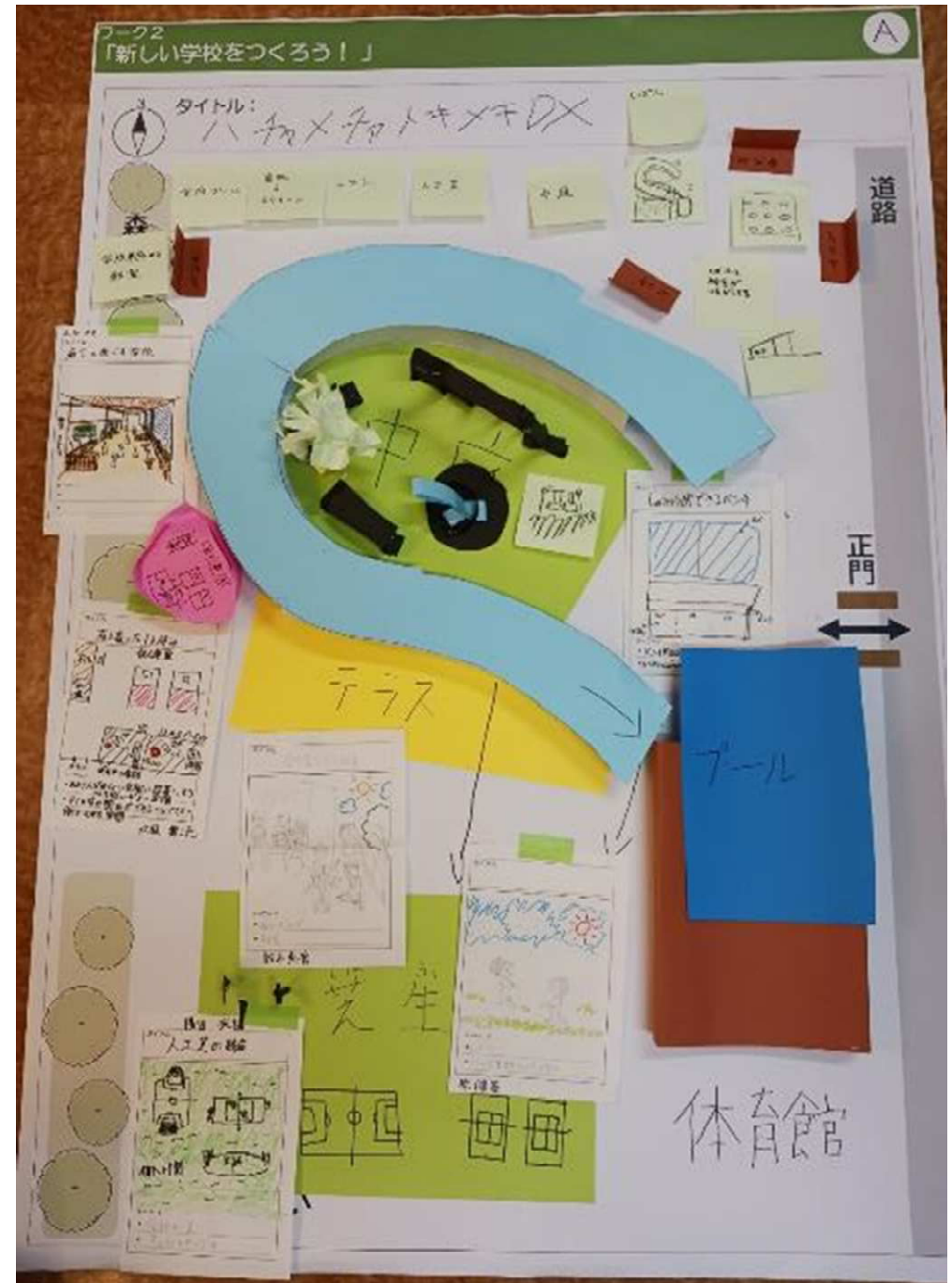
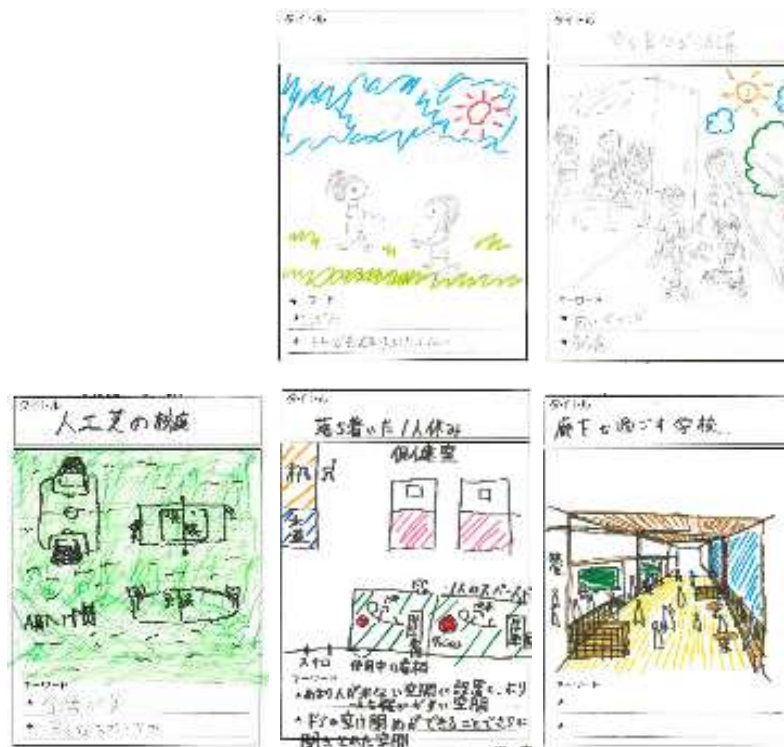
Ⅱ) こども部会

3-2 ワーク2「新しい学校をつくろう！」結果まとめ

A

タイトル：ハチャメチャトキメキ DX

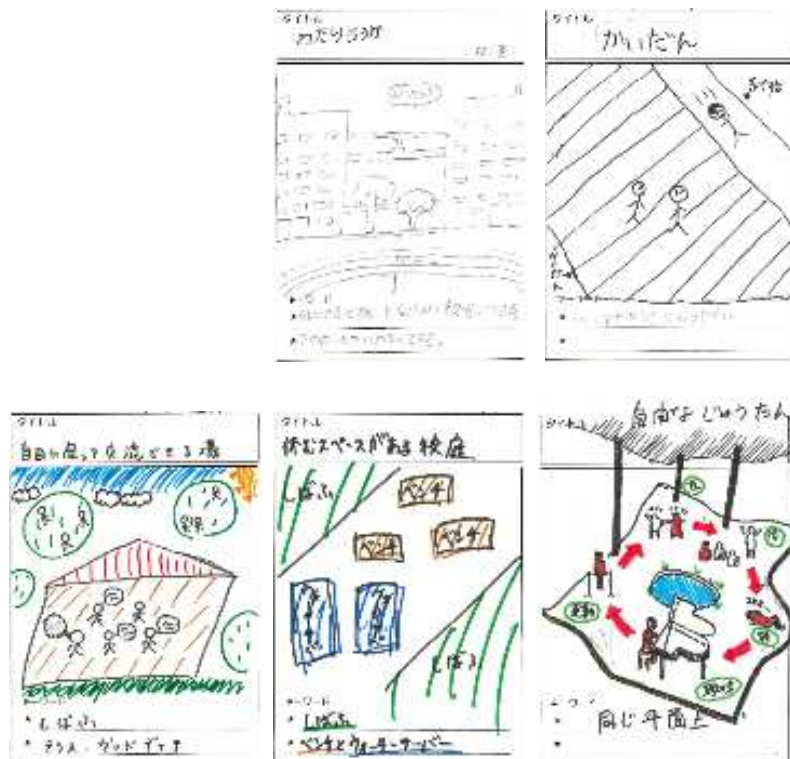
- 校舎は、中庭を囲むように曲線的な形にして異学年で交流できる。
- テラスから芝生広場に出て、空をみながら給食を食べられる。
- 中庭の中心にある噴水を見ながら休める、木の横にあるベンチがおすすめ。



Ⅱ) こども部会

3-2 ワーク2「新しい学校をつくろう！」結果まとめ

- B** タイトル：交流の場が中心の学校
- 中庭を介して、すべての建物にアクセスできる。全学年が往来することで交流につながる。
 - 中庭と建物の間にある半屋外のテラスが、居心地の良い居場所となる。
 - 校舎と校舎は渡り廊下でつなげ、往来しやすくする。



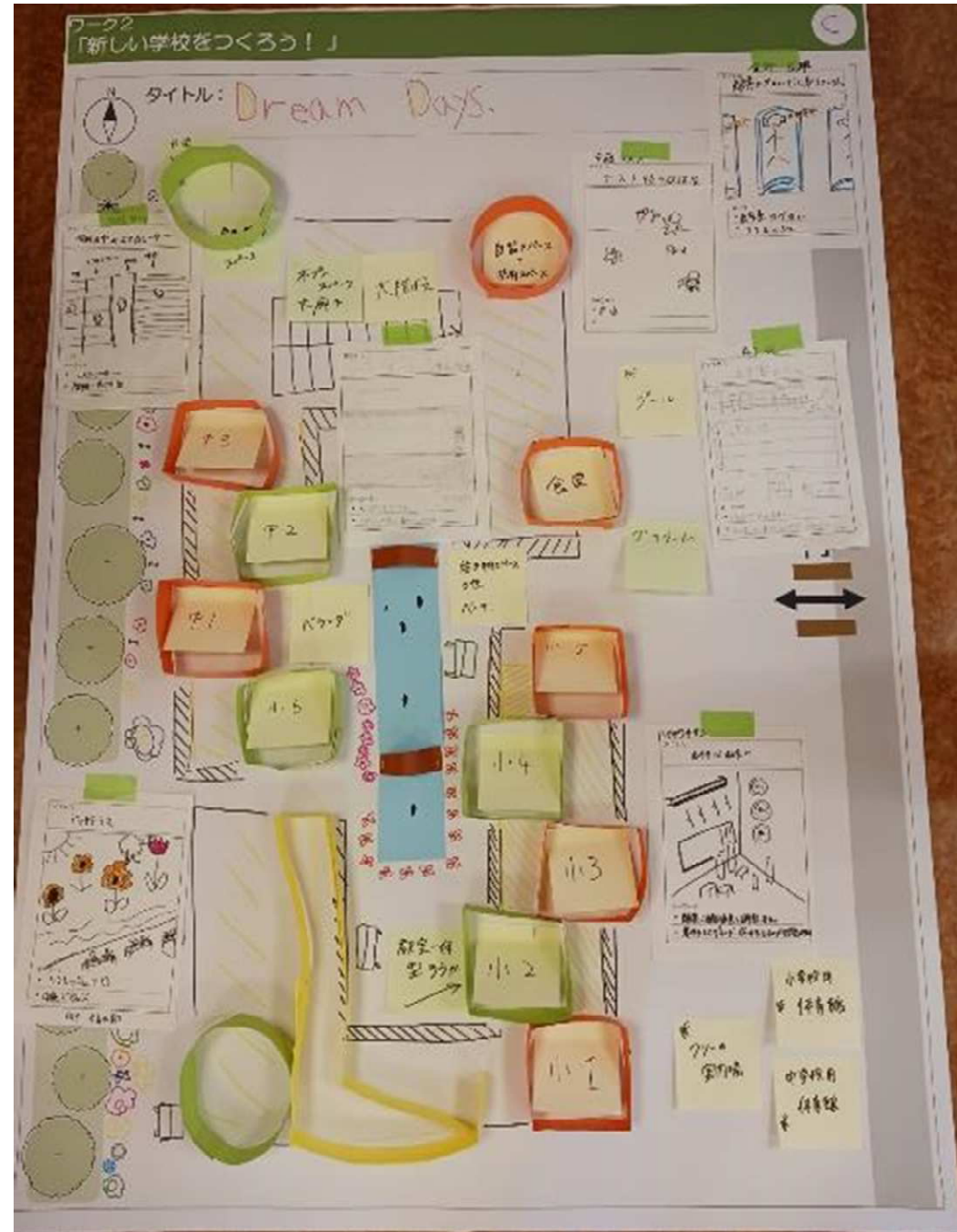
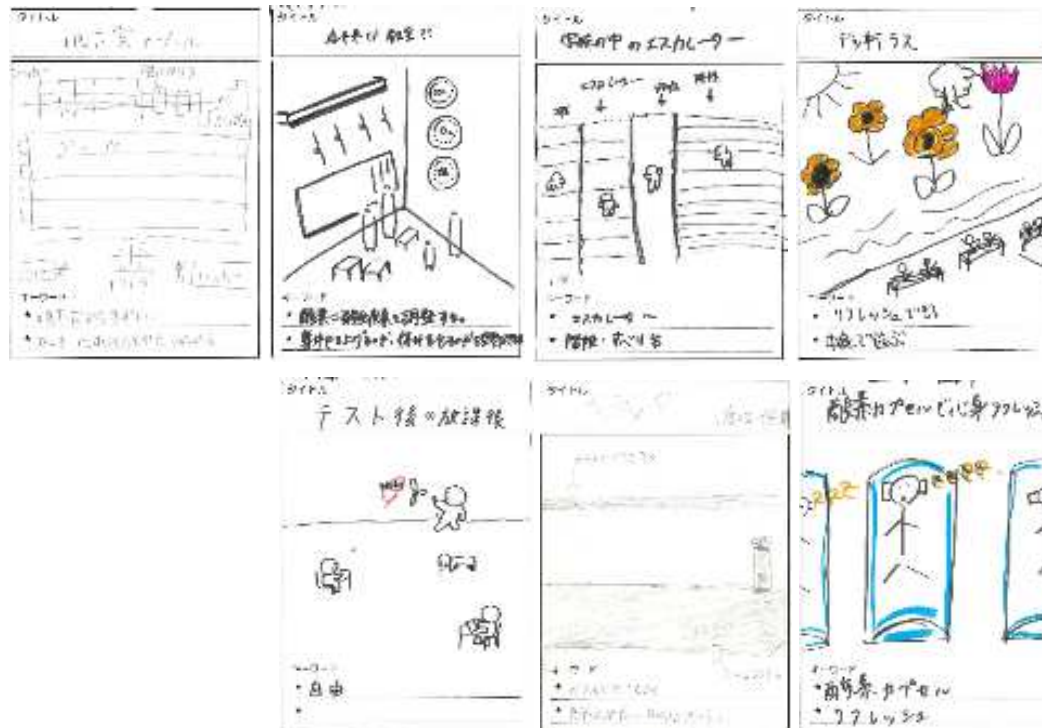
Ⅱ) こども部会

3-2 ワーク2「新しい学校をつくろう！」結果まとめ

③

タイトル：Dream Days.

- 1階はクラスルーム、2階は特別教室を配置する。
- クラスをジグザグに配置し、バルコニーや廊下を共有することで、他クラスと交流ができる。
- 中庭に池や花壇を置くことで、気分転換ができる。
- 校舎の角には、勉強や交流ができるオープンスペースを配置した。
- いたるところにベンチを置いて、リフレッシュの場に。



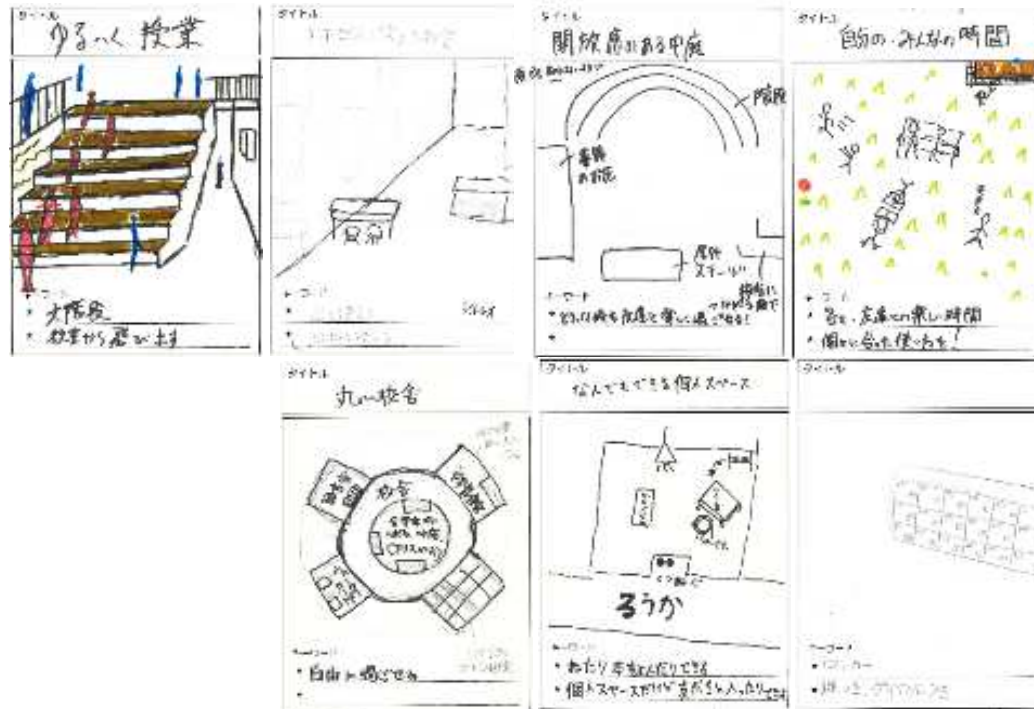
Ⅱ) こども部会

3-2 ワーク2「新しい学校をつくろう！」結果まとめ

D

タイトル：庭でつながる学校

- 中心に中庭を配置し、校舎が囲む。校舎内は外側から順に廊下→教室→バルコニー→中庭と構成した。バルコニーから中庭にかけて交流が生まれる。
- 1階は小学生で、1・2年生、3・4年生、5・6年生ごとにゾーンをつくり、学び合い、助け合いができるように。
- 2階は中1・2、3階は中3として、受験生は落ち着いて過ごせるようにする。
- 庭を中心として、中心から全学年が登下校を行う。
- 職員室は1、2階に縦につなげ、先生同士も小中の連携がとれる。



Ⅱ) こども部会

3-2 ワーク2「新しい学校をつくろう！」結果まとめ

考察

○交流の場

- 各グループに共通して見られた特徴として、**中心に中庭を配置し、学年を超えた交流の場**として活用するというアイデアが挙げられました。中庭は、異なる学年の児童生徒が自然に交わることができる空間として位置づけられており、学校全体のつながりを生む核となっています。
- さらに、中庭のようなまとまった交流空間だけでなく、**教室と教室の間や学年ごとのゾーニングの境界にオープンスペース**を設けることで、他クラス・他学年との偶発的な交流を促す工夫も提案されています。

○憩いの場・開放感

- 各案には、芝生広場や噴水・池、花壇など、**自然を感じられる要素**が取り入れられています。
- また、「空を見ながら給食を食べる」や「開放的なテラスで過ごす」といったアイデアからは、**屋外とのつながりを意識**して配置が考えられていることが分かります。
- これらの提案からは、自然と調和した開放的な環境が心地よく**、リラックスや気分転換につながる場として求められていることが分かります。

Ⅱ) こども部会

4. 感想アンケートの結果

(小中高校生)

Q.いろいろな年齢の人と一緒に過ごしてみて、今後の学校生活に役立つことはありましたか？

建築の大学生がいて、いろいろ建築のことを知れた！/大根中学校がどんな感じが少し分かった/年齢が違うので、考え方が違い、説得力があってすごかった/年上の人の意見は理想と実際のことを分けて考えられていてすごいと思った。とても参考になった。/新しいことを知れる、協力して話すときの緊張が減る/話のきっかけをつくったり、何かに率先して取り組む姿を見習いたい/高校生大学生と関われることは少ないので、貴重な経験になりとても楽しかった/普段の学校生活からはあげられない立場の意見を聞くことができた。/自分と違う考えが聞けて面白かった/異学年交流をもっと活発に行いたいと思った。/

(大学生)

Q.小中高校生と関わってみて、気づいたことや感想を教えてください。

自分にはない柔軟で予想外の発想に感心した。それぞれの視点からの自分なりの意見を出せていたと思う/自分たちでは現実的になってしまう中で自由に発想が生まれてくる/当事者だからこそその視点が面白かった/小中高校生の意見の方が、現代の問題を捉えていたと感じた/小学生も中学生もお互いに交流に対する意欲が見られた

Ⅱ) こども部会

4. 感想アンケートの結果

自由意見

(小中高校生)

グループワークがとても楽しかった/みんなで交流するのが楽しかった/年上の人が優しくしてくれてうれしかった/大学生がリードしてくれてとてもやりやすかった/いろいろな人と話して、話すときの自信がついた/チームで楽しめた/お昼ご飯をみんなと仲良く食べれた/いろいろな経験や出会いがあり、楽しい思い出ができた/大学生が分かりやすく話を進めてくれてカッコよかった/小さい子と関わる機会がなくなっていたのでとても良い交流だった

(大学生)

年齢の壁を超えて話をすることができ、貴重な体験となった/1から学校をつくるということが初めてで、楽しさもあり新たな学びもあった/本当に楽しく、たくさんのことを学ぶことができた/こどもの発想は本当に豊かで良いと感じた/他学年と交流するという貴重な体験でとても楽しかった